



月刊税理士事務所チャンネル

CHANNEL

2016
1
No.413

「第40回全国統一研修会・北陸大会」開催報告 6

ミロク会計人会連合会
役員 年頭挨拶 2

ミロクシステムQ&A
『ACELINK NX-Pro電子申告(よくあるお問い合わせ)』 17

ミロク情報サービス代表取締役社長
是枝 周樹 年頭挨拶 5

今月の表紙:レインボーブリッジと初日
場所:東京都港区・江東区

日本の未来一
企業を支える

 ミロク会計人会

2016 初春

ミロク会計人会役員

新年の挨拶



ミロク会計人会連合会
会長 平川 忠雄

新年おめでとうございます。
ミロク会計人会の会員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

トの業績向上に寄与することになります。その視点から見れば、新税制の有効的活用を常時クライアントに提示できる事務所運営が極めて重要な年度目標になるといえます。

平成28年度税制改正大綱では、安倍政権が掲げる「一億総活躍社会」を後押しする多様な政策税制が検討され、経済活性化に向けては、法人実効税率を現行の32・11%から新年度に29・97%に下げることが明記され、地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）の創設があり、所得

既存の税制であります。画期的な改正がなされた事業承継税制が適用され、中小企業の世代交代に関して、会員の先生方のご指導などにより効果的な状況が生じています。

税・資産税による少子高齢化対策、自動車関連の減税型税制、さらに消費税の軽減税率など多様な重要項目が大綱に盛り込まれています。

税制の飛躍的改革が進む本年以降においても会員先生方の的確な経営指導による税制のさらなる効果的活用が、クライアント

ミロク会計人会と株式会社ミロク情報サービスとその関連会社は、共に全面的な協力による最大限の経済的効果がある企業利益の向上と税制の有効利用を、会員の各事務所と共有していく所存であります。新時代のリーダーとなる税理士の先生方のご活躍とご健勝を祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



北海道会会長
中原 章博

新年おめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

いま北海道会は、過去最大の会員数となっております。いまこそ会計会の課題は、会員の満足度を高め（株）ミロク情報サービス（MJS）にとつてのロイヤルユーザーを拡大すること。それがMJSのシステム改善、開発、サービスの向上をもたらし、さらなる会員拡大につながるものと考えます。

その実現へのファースト・ステップは、各会員事務所がシステムをフルに活用できるよう会がMJSと共動して支援することであると思います。北海道会は、システムフル活用事務所拡大を目指し、諸施策を推進します。会員の皆様にはぜひとも積極的なご参加をお願い申し上げます。

新たな年が皆様にとりまして良き1年でありますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



東北会副会長
齋藤 重喜

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

社会制度の大きな変化が予想されるマイナンバー制度。昨年10月から個人番号が通知され、本年1月から制度の本格運用が順次開始されます。しかし、制度の内容を理解していない小零細企業も少なくありません。税理士には番号制度に関する顧問先企業等への適切な指導等を行うことが期待されております。

その期待にこたえるべく番号制度についての理解を深めるとともに、税理士事務所の特定個人情報管理の適正な管理体制の整備に努めなければならないと思っております。上場企業の利益額が2年連続で過去最高を更新する見通しですが、中小企業は依然として厳しい経営を強いられ、顧問先企業の経営支援に一層尽力しなければならぬと痛感しております。

新しい年がさらに良い年になるよう祈念いたしまして新年の挨拶とさせていただきます。



関東信越会会長
増田 正廣

新年おめでとうございます。

昨年の日本経済は、世界的な原油の安さおよび隣国のチャイナショックなどから、政府の金融政策に活力が見られませんでした。年末には、平成29年4月からの消費税増税時に導入される軽減税率制度も決まり、その対象に「酒、外食を除く生鮮食品と加工食品」とする旨の税制改正大綱が決定しました。

また、マイナンバー制度の導入に向けて、特に本制度に関する研修や、実施に当たっての各規定などの策定に翻弄されました。いよいよ今年は本制度の実施年です。我々はおかれた立場の責任の重さを自覚した上で、本制度の円滑な運営のための業務の重要性ならびに定着化を目指して、MJSと連絡・協調をより密にすることで一層のご支援ご協力をいただき、目標に向かっていきたいと思います。会員の皆様方におかれましては、この一年、事務所のみならずのご隆盛と皆様方のご健勝をご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



東京会会長
馬場 英晶

新年明けましておめでとうございませう。全国のミロク会計人会会員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、日本で最も明るかったニュースの一つに、一昨年に続いてノーベル賞受賞者が2名も出たことが挙げられます。日本経済も少しづつではありますが、引き続き回復軌道に乗ってきている状況が、実績に表れる顧問先も多くなってきました。

全国のミロク会計人会では、組織全体が一丸となって運営の改善・発展のために会員間で多方面な角度から提案・意見を交わし、それを一元化していくことが、今後の本会にとって、さらに大事なことで強く感じられる所存であります。私たち税理士は、経済社会の中核に所在する立場から、事務所全体の責任として、顧問先の税務と経営の両面を常に意識して業務に関わっていくことを日頃より強く感じております。会員の皆様方にとって、本年も良い一年でありますよう祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



北陸会会長
常山 明夫

新年おめでとうございませう。会員の皆様にはお健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて昨年11月12日には、金沢にてミロク会計人会連合会主催による「第40回 全国統一研修会・北陸大会」が開催され、遠方より1001名の方々に来訪いただき、無事終了できましたことを心より感謝申し上げます。

昨今、我々税理士を取り巻く実状として、今年1月からマイナンバー制度の運営開始、景気回復とは言えぬままさらなる消費税増税が控えており、顧問先企業への役割がますます重要となります。今以上にMJSとの連携を深め、会員の皆様との研修会や情報交換などに積極的に取り組むことが、ひいては顧問先企業の発展と考える活動していきたいと思っております。

最後になりますが、全国大会を経験させていただき、皆様と交流ができたこと、大変うれしく思います。今後ますますミロク会計人会が飛躍しますよう祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。



中部会会長
石川 光男

新年おめでとうございませう。さて最近、十数年間における政府の中小企業政策のポイント

は、全般的な中小企業支援から、自立する中小企業への支援へと大きく変化してきています。また、安倍政権としては、GDP600兆円、快適な労働環境整備、ものづくりなど中小企業の「より良い会社づくり」への自立支援を目指しています。

私も会計人こそ中小企業のベストパートナーとなるべく、税務・会計は言うにおよばず経営相談・種々の法令順守、適切な労働環境、事業継承など幅広い見識が求められています。

一個人としての対応では不十分とすれば、私もミロク会計人会の組織力で、実務研修のさらなる充実を図り、相乗効果が大きい発揮され更なる支援が期待できます。

私たちは経営者であり、会計人会として当事者意識を持ってさらなる中小企業の自立への支援を念頭におき、より一層組織力をともに高めましょう。本年も皆様方にとって、より良い年になるよう祈念致します。



近畿会会長
植田 卓

平成28年を迎え、新春のお慶びを申し上げます。

最近、今から30数年前にタイムスリップした夢を見ました。当時はコンピュータを導入している事務所もまだ少なく、税理士事務所の看板に書かれた「コンピュータ会計」の文字が先端事務所の象徴でした。とはいももの当時は、コンピュータを導入して効率化することが主な目的であり、処理の結果は手計算によるレベルと変わっていませんでした。

しかし今日では、会計処理も税務処理も、その内容が複雑かつ高度化されており、コンピュータを利用しないで対応することは不可能といって過言ではありません。それ故に、税理士事務所の業務において、情報システムの優劣が非常に重要なファクターとなり、ミロク会計人会のような「モノ言うユーザー」の存在が期待されています。

昨年、近畿会会長に就任したばかりですが、今後とも、ユーザー会の使命を念頭に置きながら進んでまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。



中国会会長
吉井 利幸

新年明けましておめでとうございませう。ミロク会計人会の会員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

アメリカや中国の経済がどうであるとか、安倍総理の新しい本筋の矢がどうであるとか、TPPがどうであるとか、一部の評論家の方々は不景気などのマイナス要因を外的要因にばかり目を向けさせがります。しかしながら、現実には内的要因による問題のほうが大きいのではないかと考えています。まして外的要因はどうしようもありません。そういう中で自分たちに何ができて何ができないのかを明確にして、できることをしっかりとやっていくことが重要だと思っております。

これから中小、零細企業に対する我々会計人の役割が大きくなってまいりますので、しっかりとその期待に応える必要があります。今年も会員の皆様におかれましては良い年になりますよう祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



四国会会長
松内 邦雄

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、お健やかに申の年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は輸出企業をはじめとする国内大手企業においては右肩上がりの業績でしたが、中小零細企業の収益に反映するにはデフレ脱却とともに時間がかかりそうです。景気回復が不透明な中、今後税理士の果たす役割と舵取りがますます大事になっていきます。

さて、今年は愛媛県松山市において『第41回 全国統一研修会・四国大会 in 松山』が11月17日に開催されます。四国一の大都市の城下町松山は歴史もあり、温暖な気候とのどかな町並み特徴です。そして、多くの俳人や文人を育てた町でもあります。

全国の会計人会会員の皆様、坊っちゃん列車、道後温泉がある四国松山へぜひお越しください。お待ちしております。

今年も皆様健康でありますように祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。



九州会会長
大久保 昌逸

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、本年の干支は申年であり、大地から草木が成長し、固く結実した状態を表すそうです。各界の経済見通しでも「申」の文字が示すように緩やかな回復軌道にあるようですが、我々の関与先である中小零細企業にとっては、まだまだ厳しい状況が続いています。そんな中、いよいよマイナンバー制度が開始されます。会員の皆様はもとより関与先での準備は万全でしょうか。特にセキュリティについては、日頃から守秘義務に係わる仕事をしている私たちの立場からの助言が必要不可欠であります。便利で公正な社会を思う反面、大過のないようにと祈る気持ちです。

最後になりましたが、この新しい年が全国各地の会員の皆様にとりましてすばらしい年となりますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



沖縄会会長
高良 正一

新年おめでとうございます。会員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年思いもよらず沖縄会の会長、連合会の副会長に就任することになってしまいました。いささか荷が重い役職を引き受けた感じがしますが、熱心で協力的な沖縄会の役員たちとの話し合いを重視しながら、会員から喜ばれる会活動目指して頑張りたいと思っています。また、知識経験豊富なミロク会計人会連合会の他の役員先生方から大いに学んで自分自身を高めたいと思っています。

中小企業や国民生活を取り巻く状況は依然として厳しいものがあり、納税者や企業経営者の税理士に対する期待はこれからますます大きくなると思われまます。会計人会が会員の意見交流の場、寄り所ともなつたらと思っております。全国各地の会員の先生方の本年のご活躍とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶とします。



連合会監事
鈴木 孝

新年おめでとうございます。全国の会計人会の皆様におかれましては、お健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、本年1月から国内に住む全ての人が12桁の番号「マイナンバーカード」の交付を無料で受けられます。個人番号の利用範囲は当面、税と社会保障、災害時の支援の分野に限定されます。一方、平成29年4月から消費税率が10%に引き上げられる予定ですが、前回の消費税率アップ同様、経過措置として指定日（10月1日）前に契約等を行うとすると改正前の消費税率が適用されるので、一旦は駆け込み需要で消費は上昇するものの後半先細りにならないよう政府には経済政策（3本の矢）を進めていただきた。中小企業の経営環境が目まぐるしく変化する中で私たちミロク会計人会は、顧問先企業の繁栄に積極的に取り組んでまいります。このためMJSと連携を図り、より良いシステムの提供を働きかけてまいります。

この年が皆様にとりまして、良い年でありますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶と致します。



連合会監事
武安 紘二

新年明けましておめでとうございます。全国のミロク会計人会の先生方には穏やかに新年をお迎えにいられたことと心からお慶び申し上げます。

私が中国会会長を卒業させていただき、引き続き連合会監事という大役を仰せつかりまして1年半が経過しました。このわずかの間に全国の単位会の動き、連合会5委員会の活動状況が、以前よりしっかりと分かるようになってきました。事務局の事務・会計処理を通して、先生方の「善行や、楽しく事業活動をやっておられる姿が目に見えるようです。いつも全国の会計人会を調整する事務局のお仕事は大変なものと、感心すると同時に感謝の気持ちで一杯です。

MJSは枝 周樹社長はいつも「会計人会とMJSは車の両輪であり、運命共同体です」と述べておられます。私も連合会監事は、会計監査をすることが第一義的職務ですが、正副会長の先生方、各委員会長の先生方と力を合わせて「車の両輪」のお手伝いができればと、そんな思いを持ち続けながら職務に当たりたいと決意しています。

謹んで新年のご挨拶を申しあげます。



株式会社ミロク情報サービス
代表取締役社長
最高経営責任者
是枝 周樹

個々の企業の成長戦略が 求められる

アベノミクスが始動して今年で4年目を迎えます。当初は、金融・財政政策等により急速に円安・株高が進むなど、日本経済の先行きに大きな期待感が高まりました。しかし、昨年の日本経済は、中国やアジア経済の減速の影響もあり、輸出や個人消費の回復力は弱く、先行き不透明な状況となりました。そのような中、アベノミクスの第2ステージとして『新3本の矢』が発表されました。国の政策に大いに期待する一方で、私たち個々の企業が自らの成長戦略を描き、ビジネスチャンスを作り出していくことが、日本経済を下支えする大きな活力になるものと確信しています。

マイナンバー制度への対応

本年からマイナンバー制度の運用が開始されます。税理士先生におかれましては、顧問先企業に対するマイナンバー制度の周知、指導など、多大なご尽力をされていることと推察します。当社は、会計事務所におけるさまざまな運用に配慮したマイナンバー管理システムやセキュリティ製品を取り揃え、また、各種セミナーや研修会を通して情報提供を行っております。当社のお客様である会計事務所や顧問先企業が、安全かつ効率的にマイナンバー制度に対応できるように、引き続き全社一丸となつてご支援してまいります。

会計事務所と共に、 中小企業を元気にする

いま、ITの分野ではInternet of

Things、いわゆる「IoT」の概念やビッグデータ、人工知能など、私たちのライフスタイルやビジネス環境を大きく変化させる技術革新が進展しています。当社におきましても、IT分野での最新技術の調査・研究や専門会社とのアライアンスを積極的に進めており、新しい価値創出に向けてチャレンジしています。

また、中小企業の事業承継を支援するために、子会社であるMJS M&Aパートナーズにおいて、ミロク会計人会との協業を推進するとともに、会計事務所とパートナー制度を発足しました。会計事務所の先生方と共に、顧問先企業の立場に立った事業承継を万全な体制でご支援できるよう努めてまいります。

今後、大きな経営環境の変化が見込まれる中、会計事務所におきましては、会計や税務の領域を超えて顧問先企業と共に成長戦略を描き、ビジネスチャンスを創出していくことが求められると思います。

当社は、会計事務所の先生・職員の皆様へのご支援を通して、顧問先企業の発展に貢献することを使命としています。会計事務所がより一層、付加価値の高いサービスを顧問先企業に提供できるよう、先生方と更なる強固なパートナーシップを構築するとともに、先生方のご期待に応えるべく新たな価値創出に邁進してまいります。

最後に、諸先生、職員の皆様のご健勝を心より祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

「第40回全国統一研修会・北陸大会」開催報告

「いま、輝きを越の国から地方再生！」を

テーマに開催され、1001名が金沢に集結!!

11月12日(木)、石川県金沢市の「ANAクラウンプラザホテル金沢」ならびに「石川県立音楽堂」にて、ミロク会計人会連合会主催の一大イベントである「全国統一研修会・北陸大会」(開催担当会:北陸ミロク会計人会)が、1001名の参加を得て盛大に開催されました。



式典の様様

式典は、午後1時30分から渡辺雅之大会実行副委員長とアシスタントの寺田明子氏の司会の下、常山明夫大会実行委員長の挨拶により開会。

平川忠雄ミロク会計人会連合会会長による大会開催のご挨拶の後、麻生太郎財務大臣からの祝辞を吉井利幸副会長が代読披露。その後、来賓の木村陽一小企業庁事業環境部部長および平野豊北陸税理士会会長からご祝辞をいただきました。

単体会表彰では、昨年の「第39回全国統一研修会・中部大会 in 名古屋」を担当された中部ミロク会計人会を代表し、石川光男中部会会長が表彰を受けられました。功労者表彰では、このたび任期を終えられた北海道会の井内敏樹前会長、近畿会の

林伸三郎前会長、沖縄会の知花直治前会長が表彰されました。そして、協賛会社であるミロク情報サービスの是枝周樹代表取締役社長の挨拶の後、祝電披露が行われ、北村具頼大会実行委員の閉会の言葉で式典は終了となりました。

引き続き午後2時15分から行われた基調講演は、梶義明大会実行委員の閉会の言葉でスタート。作家・前東京都知事の猪瀬直樹氏より、「この国のゆくえ」をテーマにご講演いただき、孫崎健次大会実行委員の謝辞と閉会の言葉で幕を閉じました。

その後、会場を分けて3つの分科会を開催。

第1分科会は、連合会情報ネットワーク委員会の企画・運営による「業務改善シリーズ第4

弾突撃!隣の事務所の...ニッポンの半歩先行く税理士事務所」をテーマにした調査報告と、国立天学法人東京工業大学像情報工学研究所教授・工学博士の大山永昭氏による「番号制度導入の背景と今後の展開」をテーマにした特別講演が行われました。特別講演では、吉田武史大会実行委員が司会を務めました。

第2分科会は、株式会社能作代表取締役の能作克治氏に「素材とデザインで市場を拓く」をテーマにご講演いただきました。中村雅紀大会実行委員が司会を務めるとともに閉会の言葉を述べ、最後は出村貴昭大会実行委員の謝辞と閉会の言葉で終了しました。

第3分科会は、元金沢市長で石川県立中小企業団体中央会会長の山出保氏を講師に招き、「まちづくりものづくり金沢の物語」をテーマにお話しいただきました。高柳満大会実行委員が司会を務めるとともに閉会の言葉を述べ、八田守大会実行委員の謝辞と閉会の言葉で終了しました。

第1分科会は、連合会情報ネットワーク委員会の企画・運営による「業務改善シリーズ第4

弾突撃!隣の事務所の...ニッポンの半歩先行く税理士事務所」をテーマにした調査報告と、国立天学法人東京工業大学像情報工学研究所教授・工学博士の大山永昭氏による「番号制度導入の背景と今後の展開」をテーマにした特別講演が行われました。特別講演では、吉田武史大会実行委員が司会を務めました。

第2分科会は、株式会社能作代表取締役の能作克治氏に「素材とデザインで市場を拓く」をテーマにご講演いただきました。中村雅紀大会実行委員が司会を務めるとともに閉会の言葉を述べ、最後は出村貴昭大会実行委員の謝辞と閉会の言葉で終了しました。

第3分科会は、元金沢市長で石川県立中小企業団体中央会会長の山出保氏を講師に招き、「まちづくりものづくり金沢の物語」をテーマにお話しいただきました。高柳満大会実行委員が司会を務めるとともに閉会の言葉を述べ、八田守大会実行委員の謝辞と閉会の言葉で終了しました。

了しました。



開会の挨拶をされる常山 明夫大会実行委員長



壇上の連合会役員



単位会の表彰を受ける石川 光男中部会会長



(右から)司会の渡辺 雅之大会実行副委員長とアシスタントの寺田 明子氏



ご来賓席と協賛会社席



功労者表彰を受ける井内 敏樹北海道会前会長



功労者表彰を受ける林 伸三郎近畿会前会長



功労者表彰を受ける知花 直治沖縄会前会長

ご祝辞

財務大臣 麻生 太郎 様
代読 吉井 利幸 連合会副会長



本日、ミロク会計人会連合会主催による第四十回全国統一研修会が、石川県金沢市において盛大に開催されるにあたり、心からお祝いを申し上げます。

皆様方におかれましては、日頃より、独立した公正な立場から、納税者を支援して国民の納税義務の適正な実現を図るという公共的使命を果たされる一方、納税の基礎となる記帳や会計処理をはじめ、商取引の面においても指導的な役割を果たすことで、国民経済の健全な発展と健全な国家財政の実現に寄与しておられることに對し、敬意と感謝の意を表するものであります。

ここ石川県はもちろん、地方には、世界的なシェアを有する製品を作り出している中小・零細企業が数多く存在しております。日本には、高度で丁寧なものづくりの技術が根ざしています。

そしてまた、日本の企業は三百五十四兆円にも上る内部留保を抱えており、年々増加してきております。日本経済の発展のためには、こうした技術と資金を今一度有効に活用していくことが重要であると考えております。

ミロク会計人会には、全国八千事務所もの税理士・公認会計士の先生方が加入されていると聞き及んでおります。先生方には、全国の中小企業の皆様を元気にしていただくための取組を行っていただき、日本経済の発展のために引き続き御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

本年の全国統一研修会が実り多いものであることを期待しますとともに、貴連合会の益々の御発展と、御参加の皆様方の御健勝をお祈り申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

ご祝辞

中小企業庁 事業環境部部長
木村 陽一 様



ミロク会計人会連合会 第40回全国統一研修会・北陸大会の開催、誠にありがとうございます。中小企業庁を代表して、ご挨拶を述べさせていただきます。

貴会は発足から40年、いまや全国に数多くの税理士・公認会計士の皆様を会員とする組織に発展されました。現在、政府では、安倍政権の経済政策を地域の中小企業、小規模事業者に向け、景気回復を全国の津々浦々に実感していただく、「ローカル・アベノミクス」の実現が最重要課題となっております。この「ローカル・アベノミクス」の実現には、税務・会計のプロフェッショナルであるミロク会計人会の皆様による、記帳指導や中小会計要領の普及に向けたお力添えが不可欠であります。特に中小会計要領は、中小企業が人的・資金的な制約がある中で、投資判断や経営改善を的確に行うこと、また、スムーズな資金調達や取引先の拡大などを可能かつ容易にするものとして、政府も普及に力を入れています。皆様におかれましては、中小会計要領のメリットを中小企業の経営者の方々にぜひ広めていただき、地域の中小企業が生産性を向上させ、新たなビジネスチャンスをつかむことを今まで以上にお手伝いいたしたたく存じます。

これからもミロク会計人会がますます発展されまして、日々事業に専念する中小企業、小規模事業者に対し、お名前の由来である弥勒菩薩のような温かい眼差しを注いでくださいますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

ご祝辞

北陸税理士会会長
平野 豊 様



本日は、第40回全国統一研修会・北陸大会がかくも盛大に開催されましたこと、心よりお慶び申し上げます。そしてまた、会場の先生方の中には、税理士会の会務運営に中心となつて活躍されている方も多く、日頃の税理士会に対するご支援、協力を改めて厚く御礼を申し上げます。

今、アベノミクスの第2弾「新三本の矢」が提唱されており、その中で、我が国のGDPを600兆円にするという目標が掲げられています。翻つて近年の我が国のGDPの推移を見ると、2000年に509兆円だったものが、14年には487兆円と5%減少しています。また、我が国の中小企業、小規模事業者の数に關しても、99年は484万事業者であったのが、12年には385万事業者と、99万事業者も減少しており、このことがGDPの伸び悩みと深い関係があるようにかがえられます。つまり、事業者数の減少に歯止めをかけ、増加に転じさせることができれば、日本経済の活性化、ひいてはGDPの増加に貢献できるのではないかと思ふ次第でございます。

日税連では昨年、中小企業対策部という恒常的な組織を創設しました。また当地北陸税理士会では、同部を8年前、全国に先駆けて立ち上げ、中小企業の支援を推進してきました。本日の記念すべき40回目の本大会が、実り多き内容となりますことを、そして中小企業支援がさらに前進するための大きな契機となりますことを、心から期待を申し上げまして、お祝いの挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

ミロク会計人会連合会会長
平川 忠雄



日本全国から大勢の先生方ならびにご関係者の方々にお集まりいただきありがとうございます。こゝ金沢は、北陸新幹線の開通により首都圏からの交通アクセスが非常に良くなりました。そのような利便性の高いところで本大会を開催できますことに、まず感謝したいと思います。そして本大会も第40回という節目を迎えました。

さて、我が国の消費税制度がこれから先、大きく変化するという時期を迎えました。恐らく今回の改正で我が国の長年にわたつた「直接税中心方式」というものが大きく転換するのではないかと思います。その中でも、複数税率が本導入されるの注目が集まっています。このことは、我々のように直接税務に關わっている者のみならず、いわゆる消費者の方、そして製品・サービスを提供している方々にとつても大きな問題となるわけですね。目下、与党税制調査会等におきましてこのことに関する議論を尽くしている最中ですが、こゝひと月ほどの間で、これから何十年先の我が国の大きな税制の変化が感じられるようになりました。折から、税務を担当している先生方を中心とした本日も参加の皆様は、この時期にこの仕事に携わっていることに対する本當の意気込みを示していただきたいと、心より思う次第でございます。

本日の基調講演や各分科会では、素晴らしい講師の方々が目白押しですので、我々も大いに期待しております。皆様、本日はお時間の許す限り、さまざま講演等に積極的に参加ください。本日はありがとうございます。

協賛会社挨拶

ミロク情報サービス
代表取締役社長
是枝 周樹



本日は、ミロク会計人会連合会主催の、第40回全国統一研修会・北陸大会において、多くの皆様にお集まりいただきましたことに、心より深く御礼申し上げます。大会準備にあたられた北陸会の諸先生方、ならびに、ご来賓の先生方にも、厚く御礼申し上げます。

いま、会計事務所の先生方が最も注目されているのは、マイナンバー制度であると思います。マイナンバー制度の運用においては、会計事務所の先生方の果たされるべき役割は大きく、顧問先様に対する周知、指導など、多方面での支援が必要になるかと思ひます。当社におきましても、さまざまな製品・サービスをご用意し、お客様のマイナンバー対応を全社一丸となつて支援させていただいているところでございます。

また、国内において、少子高齢化が急速に進展しており、今後10年以内に、大半の企業が世代交代を迎えると言われております。今後、会計事務所におきましても、顧問先様から事業承継に関する相談が一層増えると思ひます。当社におきましても、中小企業における円滑な事業承継を支援するために、「MJS M&A パートナーズ」という子会社を設立し、本年4月から事業を開始しております。

当社はこれからも、ミロク会計人会と車の両輪のごとく協力し合い、会計事務所業界の発展、そして顧問先の中小企業を元気にできるよう、最大限のご支援をさせていただきます。今後とも、ご指導・ご鞭撻くださいますよう、お願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



懇親パーティーの風景



金沢素囃子の華麗な演奏



気分を盛り上げる金沢 芸妓踊り



協賛会社挨拶をされた
MJSの是枝 伸彦会長



四国会の皆様が次期大会への参加を呼びかけ!



懇親パーティーの司会を務めた
朝山 茂樹大会実行委員(右)



「越中おわら」は会場を魅了

懇親パーティーは午後6時40分、「金沢素囃子」で幕を開けました。金沢素囃子は長唄、常磐津、清元などの邦楽から唄を除き、小鼓、大鼓、笛などでの演奏（囃子）が独立したものです。その格調高さや優美華麗さ、技能水準は全国トップクラスといわれ、金沢が誇る伝統芸能の一つとなっています。

オープニングの演奏が終わると、朝山茂樹大会実行委員の司会のもと懇親パーティーが進められ、まずは桶屋 泰三大会実行副委員長が開会の挨拶を行いました。続いて来賓紹介があり、平野豊北陸税理士会会長、基調講演や各分科会の講師を務められた、猪瀬氏、大山氏、能作氏、山出氏ご紹介されました。その来賓を代表し、平野氏がお挨拶と乾杯のご発声をされました。

食事が始まり、次に行われたアトラクションは金沢 芸妓踊りです。演目は「金沢風雅」で、上品ながらも軽快な演奏と、宴の気分を高める歌詞の唄、そして統一感のある芸子さんの踊りが、参加者の皆様を楽しませてくれました。

それからしばしの歓談の時間では、同じ単体会で親睦を深める人、他のテーブルに赴き他の単体会の方と旧交を温める人など、皆様思い思いに楽しまれた様子でした。

この日最後のアトラクションは、越中八尾おわら保存会福島の皆様による、越中おわら風の盆です。これは富山県富山市八尾町で毎年9月1日から3日にかけて開催される祭り、その中で行われている「越中おわら」と呼ばれる唄と踊りが披露されました。叙情豊かで気品高く、哀調の中に優雅な趣を有した唄と舞は、観る方を魅了しました。

全てのアトラクション後、ミロク情報サービスの是枝伸彦代表取締役会長より挨拶がありました。続く次期大会へのお誘いでは、松内邦雄四国会会長をはじめとする四国会の皆様が壇上に上がり、愛媛県松山市で開催される第41回の大会への参加を呼びかけました。そして、最後に渡辺雅之大会実行副委員長の閉会の言葉があり、懇親パーティーは終了となりました。

講演者

猪瀬 直樹 氏

いのせ・なおき

作家・前東京都知事

1946年、長野県生まれ。87年、『ミカドの肖像』で第18回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞、2007年、東京都副知事に任命される。12年から13年、東京都知事。著書に『ペルソナ 三島由紀夫伝』『ピカレスク 太宰治伝』（文春文庫）、『昭和16年夏の敗戦』『天皇の影法師』（中公文庫）、近著に『さようならと言ってなかった わが愛わが罪』（マガジンハウス）、『救出 3・11気仙沼 公民館に取り残された446人』（河出書房新社）、『戦争・天皇・国家』（田原総一朗氏との共著、角川新書）などがある。



「この国のゆくえ」

東京都副知事、知事時代を通して、東京オリンピックの招致のために奔走した猪瀬 直樹氏。「この国のゆくえ」をテーマに、オリンピックを控えた今、日本がなすべきことについてご講演いただきました。

MRJが日本の空を飛んだ

昨日（11月11日）、国産旅客機「MRJ（三菱リージョナルジェット）」が空を飛びました。大変画期的なことです。米国はこれまで日本に飛行機をつくらせませんでした。米国は第2次世界大戦時、「ゼロ戦」でさんざん苦しめられたので、戦後日本から航空主権を奪ったのです。つまり、我々が日本の飛行機で日本の空を自由に飛び回る状態をつくらせないというのが、米国の占領政策における非常に重要な柱だったわけです。

東京をはじめとした1都8県（神奈川、埼玉、栃木、群馬、新潟、山梨、長野、静岡）の空

は今も米国の空域です。だから、以前は羽田空港からこちらの小松空港に来る時、飛行機は羽田から1万m近辺まで急上昇してから水平飛行に入らなければなりませんでした。また過日、神奈川・厚木基地で自衛隊のジェット機発着の騒音裁判がありました。そこでは国内法で朝夕の発着を減らすという判決が出ましたが、米軍機については「治外法権」なので規制できなかつた。こういった事実を知っている人がどれだけいるでしょう。夏に閣議決定された集団的自衛権の行使に関わる議論では、空域の返還についても議題に乗せるべきだったと思います。

GDP 600兆円は可能か

安倍晋三内閣は、このほど「一億総活躍社会」を提唱し、GDPを500兆円から600兆円に上げると宣言しましたが、これはそう簡単なことではありません。ただ、最も期待できるのが観光収入です。東京五輪という看板を出している間に、どれだけ外国人観光客を

増やせるかがポイントになるでしょう。

今年、日本には1600万人以上の観光客が既に訪れています。数年前までは年間1000万人に届かなかつたので、確実に増えています。今度の五輪までに2000万人に達するといわれていますが、私は2500万人くらいにはなると思っています。これをGDPに換算すると1〜2%の上昇効果が見込めます。さらに今、移民が話題となっていますが、観光客を「短期移民」と考え、政策的に膨らませていくのも大事なことです。GDPは人口に比例します。米国のGDPが伸びているのはヒスパニック系を中心に人口が増え続けているからです。今から20年ほど前、日本がバブルでGDP 500兆円に達した時、米国は1000兆円でした。当時の日本人口は1億2000万人、米国は2億4000万人。現在、米国の人口はおよそ3億人でGDPは1500兆円、日本の3倍の規模となっています。日本は少子高齢化で人口は増えません。

それだけに観光を盛り上げるこ
とが重要なのです。

2度目の五輪を開催する理由

東京で2度目の五輪を開催す
る意味を問われるなら、端的に
「我々のいいところを世界にア
ピールするため」といえるでし
ょう。アジアで初めて近代国家
をつくったのは日本です。日本
人ならではのきめ細かな技術と
協調し合う国民性によって、欧
米とは違った形の近代社会を実
現しました。その自信と思いや
り、おもてなしの精神をもって、

我々はもう一度やり直さなけれ
ばいけません。

招致合戦は当初「東西の架け
橋」をアピールしていたトル
コ・イスタンブールが優勢でし
た。16年のブラジル・リオデジ
ヤネイロ五輪の誘致に当たって
は「5大陸のうち唯一、南米で
だけ開催されていない」ことが
決定打となりました。そんな中
で日本はなぜ2回目を開催する
必要があるのか、最初の東京五
輪はアジア初だからこそ意味が
あったわけでは

日本には素晴らしい技術や観
光客を呼び込む下地といった可
能性がまだまだあります。



基調講演の風景

ですが、肝心の「目標」が
ありません。それは第一次
安倍政権以降、総理大臣が
次々と代わり、リーマン・
ショックで経済が落ち込み、
政権交代した後の東日本大
震災を経て顕著になりました。
日本人はどんどん自信
を失い、自虐的になってい
ってしまったのです。でも
ちょっと待ってください、
何気ない日常の中にすら、
世界でも類を見ないことが

満ち溢れているではありません
か。私たちのつくり上げた社会
では、街で財布を落としても持
ち主のもとへ返ってくる、タク
シーの運転手が料金をごまかさ
ない、電車が時間通りに来ます。
どれもこの国では当たり前なの
ことです。しかしこれら当たり前
のことこそが、世界に向けて誇
るべきことなのです。私たちが
五輪招致に当たって候補となっ
た各国が主張した「大義」にぶ
つたのは、まさにこういった
日本人の姿だったので

東日本大震災で見た 日本人の底力

日本人の強さとは何か、それ
を示す一つの事実を紹介したい
と思います。

東日本大震災により宮城県気
仙沼市は多大な被害を受けまし
た。震災直後の津波から避難し
た同市の中央公民館には付近住
民はじめ446人が取り残され
ました。その状況下で、公民館
の中にいた一人の女性が電池の
切れかかった携帯電話からロン
ドンに住む息子にメールを打ち
ます。「火の海ダメかもがんば

る」と。それを見た息子はすぐ
さまツイッターで救出を求める
メッセージを出し拡散、それが
都内に住む零細企業の経営者の
男性を通して、当時東京都の副
知事だった私のもとへ届いたの
です。

それは、短いが的確にまとま
った文章でした。作家の本能で
しょうか、メッセージを見て、
私は「これはデマじゃない」と
確信しました。そして防災部長
にも確認し、前例はないがすぐ
さま救助ヘリを飛ばすことにし
ました。というのも、宮城県に
はもともと救助用ヘリが1機し
がなく、それも水に浸かって動
けないというからです。もちろ
ん、そのほかのヘリも救助に向
けられており、回せない状況で
した。だからこそ、私と防災部
長がほとんど独断でこうした措
置に踏み切ったのです。

現場に着くと、そこには幼い
子どもから老人まで身を寄せ合
って助けを待っていたのです。
たった1本のメールが見事な情
報リレーとなつてつながり、翌
日には全員を無事に救助するこ
とができました。後で聞くと公
民館に取り残された人たちは、
津波と寒さと炎の中、ペットボ
トルの水を一口ずつ分け合いな
がら恐怖に耐えていたそうです。
避難者、息子、ツイートを拡散
した零細企業の経営者、そのう
ちの一人でも欠けていたらこの
奇跡的な救出はできなかったで
しょう。絶体絶命のピンチの中
からでもすべての人が生き残る、
これを可能にする「底力」が私
たちにはあるのです。

日本人はだめだと言う人がい
ます。政治家も頼りにならない
、「一億総活躍社会」「三本の
矢」などと言われたって、実際
は何をしているのか分かりませ
ん。そんな中だからこそいま一
度、私たちは自分の夢と国家の
夢を照らし合わせて未来をつく
り出さなければいけないのです。
一人ひとりに役割があります。
気仙沼の避難者たちに象徴され
るように、いたって普通の私た
ちは今日も各地で「ダメかも」
と思いつつながら「がんばって」い
ます。それぞれの底力を結集さ
せることができれば、2020
年までに新たな希望が見えてく
るのではないのでしょうか。

第1分科会レポート

業務改善シリーズ第4弾

「突撃！隣の事務所の・・・ ～ニッポンの半歩先行く税理士事務所～」

第1分科会は、会計事務所における業務改善を推進する情報ネットワーク委員会の企画・運営により、探偵に扮した会員の先生方がさまざまな事務所の取り組みを調査・報告する形式で進められました。また、それに続いて特別講演も行われ、国立大学法人 東京工業大学 情報工学研究所 教授・工学博士の大山 永昭氏に「番号制度導入の背景と今後の展開」をテーマにお話いただきました。

全国各地の事務所を訪問し さまざまな取り組みを報告

草野 今回は、当委員会が誇る優秀な探偵の先生方が、事務所運営に役立つ情報をご紹介します。
岡崎 私は、前回の「業務改善シリーズ第3弾」にご登壇いただき、タブレット端末の活用方法を披露くださった、九州会の

<進行>

- ・糸数 弘和会員(沖縄会)
- ・草野 恒史会員(九州会)

<登壇者>

- ・清水 俊介会員(中国会)
- ・榊 忠輝会員(四国会)
- ・岡崎 克郎会員(北陸会)



左より司会のMJS・神谷陸美、進行担当の草野 恒史会員と糸数 弘和会員

左より清水 俊介会員、榊 忠輝会員、岡崎 克郎会員

PC2」を使用しており、外出先から事務所のパソコン(PC)にアクセスし、急に必要になった顧問先の資料を確認したりしているそうです。

榊 続いて私は、関東信越会の矢ヶ崎 清先生の事務所(長野県上田市)を取材しました。矢ヶ崎先生の事務所はIT化の推進と事務所内の業務ルールの確立・徹底を図り、万全の情報セキュリティ対策を講じることはもちろん、業務効率を最大限に高める努力をされています。

糸数 情報セキュリティ対策を徹底する際、職員の協力を得ることが難しいケースがあります。矢ヶ崎先生の事務所ではどうだったのでしょうか。

榊 発案は先生ご自身ですが、実際に対策を立案・推進する役割を職員に任せたことで、自然と皆さんの意識が高まっていったそうです。また、ルールを明確につくり、それをマニュアルとして事務所全体で共有したため、対策の運用においても大きな混乱はなかったとのことでした。矢ヶ崎先生は、情報セキュリティ対策を事務所全体で推進

したことで組織が活性化し、顧問先への指導力も高まったと実感されています。

清水 顧問先とのコミュニケーションのとり方について、どのような方法があるかを私からご紹介いたします。手作りの「事務所便り」、メールマガジンなどの方法がありますが、近年はSNS※が注目されています。その中でも私は、国内のユーザー数が2500万人を超えと言われる「Facebook」を利用しています。無料である、タイムリーに情報を発信できるといった特長があります。利用してみても、同じように「Facebook」を利用している顧問先の経営者との心理的な距離感「が近づくことを実感しています。数カ月に一度くらいしか会う機会がなくても、「投稿よく見てるよ」と言われ、久しぶりに会った気がしないのです。

また、コミュニケーションツールとして最も多い媒体・方法は、やはりホームページです。MJSでは、現在ホームページ作成サービスのキャンペーンを実施しており、特に本会会員に向けては更にお得なプランを用

意しているのですが、ご興味のある方はご検討されてはいかがでしょうか。

さまざまな事務所の サーバー室や応接室を紹介

糸数 それでは探偵の先生方、二巡目の報告をお願いします。

榊 普段なかなか見る機会のない、さまざまな事務所のサーバー室を調査してきました。カメラを設置する、ノートで入室を管理するなどの工夫が見られました。また、MJSにサーバー設置に際しての注意点を聞いたところ、次のことを教えてくださいました。

- 埃が溜まらず、直射日光が当たらない場所で、極力床ではなく少し高い所に設置する
- 湿気が少ない場所を選び、湿度管理にも配慮する
- バックアップは確実にとり、定期的に行われているか確認をする

ちなみに、データの保管について私の事務所では、DATテープというデジタルデータを記録する媒体と、MJSの「セキュアストレージサービス」を併



さまざまな映像をスクリーンに映しながら進められました

用して、バックアップをとって

います。なお、情報を記録したD A TテープはM J Sの「バックアップデータ保管サービス」を利用して、預かってもらっています。このように、万が一のときでもデータが復元可能な体制を築いているので、安心して仕事に励むことができます。

清水 私は、さまざまな事務所の応接室をご紹介します。来訪者に配慮して、話の内容によってガラス張りや全面目隠しに切り替えられる部屋を用意したり、来訪者を和ませるためにたくさん絵画を飾っていたり、観葉植物を置くなど、さまざまな工夫が見られますね。その中でもポイントとなるのが次のようなことです。

●ホワイトボードを設置し、打合せや会議の内容をメモしたり、説明を補足するため図を

描くことなどに使う

●P Cモニターを設置し、顧問先に何か説明するときを使う

●オフィスマネジャーの「設備予約」を使い、応接室の予約状況を事務所全体で共有する

岡崎 私は、同じく「業務改善シリーズ第3弾」にご登壇いただいた、北海道会の久保 且佳先生の事務所（北海道帯広市）の取り組みも伺っています。応接室には大型のモニターを置き、決算予測を映しながら、顧問先と決算見込み検討会などを行ったりしているそうです。また実務では、O C Rを導入したり、エクセル出納帳をメールでもらい、それを会計ソフトに取り込むことで入力の手間を省き、業務の効率を高めているそうです。他にも、全員がダブルモニターで仕事をするなど、半歩先を行くさまざまな取り組みが行われていました。

草野 本日は事務所の業務改善のヒントとなる情報が数多く紹介されました。ここで得た情報を、明日からの事務所運営に生かしていただければ幸いです。

（文中敬称略）

<特別講演> 番号制度導入の背景と今後の展開

講演者

大山 永昭 氏

おおやま ながあき

国立大学法人 東京工業大学
像情報工学研究所 教授
工学博士



1977年、東京工業大学理学部物理学科卒業。82年、同大学院総合理工学研究科物理情報工学博士課程修了後、同大学助手、米国アリゾナ大学研究員を経て、88年に東京工業大学助教授、93年に同教授。2010年より現職。主な委員等に、厚生労働省情報政策参与、同医療情報ネットワーク基盤検討会会長、同社会保障審議会臨時委員等。

独自のシステムで個人番号を管理

番号制度は、社会保障がきめ細かでの確に行われ、行政に過誤や無駄がなく、国民にとって利便性が高い社会の実現を目指して、導入されるものです。2016年1月から、まずは税と社会保障分野で利用されます。社会保障分野では現金給付事務等で利用されますが、病歴等の管理については別途、医療等IDの導入が検討されています。官民連携については平成30年度をめどに検討が進められます。

番号法で許可されている法定業務に係る個人情報、自治体間等で提供可能とするために、情報提供ネットワークシステムが構築されています。自治体や年金機構等がネットワーク化されることで情報漏えいが生じやすくなると危惧する声がありますが、この点については十分な対策を講じています。具体的には、全国民の個人情報は、従来通り、接続される各組織に分散管理します。情報提供の司令塔となる「コアシステム」では、

「新しいインフラとなる可能性」先述述べたように、これから番号制度のさらなる展開が検討されています。具体的な例を挙げると、番号カード1枚あれば、役所や金融機関等での本人確認と各種料金の支払いが、コンビニ等で住民票など各種証明書の取得ができるようになります。さらに、例えば医療機関で保険証の代わりにしたり、医療費の決済ができたりと、考える利用シーンは数多くあります。こういったことが実現されれば、国民にとって利便性の高い社会となるでしょう。他にも、クラウド機能や電子チケット機能などの実現も検討されています。このように、番号カードは我々の社会生活を支える新たなインフラとなる可能性を秘めているのです。今後の発展を期待します。

全ての情報が疑似乱数化されているので、個人を特定することはできません。そして全ての個人情報保有機関とは、個人別の「符号」と呼ばれるコードで紐付けることにより、自治体等が個人情報を必要とした場合は、この符号を用いて個人を特定する仕組みになっています。このように、情報提供ネットワークではマイナンバーを用いないため、マイナンバーを用いて個人情報が入り込むことはありません。コアシステムは、設計側としてはかなり工夫をした仕組みで、海外で発表した際には「興味深

いシステムだ」との評価をいただきました。今はいま軌道に乗るの心配する声もありますが、準備は着々と進んでいます。徐々にご理解いただけるシステムになっていくと思います。

「素材とデザインで市場を拓く」

第2分科会では、国内外で高い評価を得ている(株)能作の代表取締役である能作 克治氏に、伝統工芸のイノベーションについて語っていただきました。

講演者



能作 克治氏

のうさく・かつじ
株式会社能作代表取締役
金属溶解一級技能士

1958年、福井県生まれ。80年に大阪芸術大学芸術学部写真学科卒業後、新聞社勤務を経て84年、(株)能作に入社。2002年に同社の代表取締役就任、翌年から錫100%の鋳物、主にキッチンウェアの製造を開始。04年にはオリジナルデザインの真鍮風鈴が松屋の「デザインコレクション」に、錫(Tin)シリーズ・真鍮風鈴が富山プロダクツに選定される。以後、東京で単独での展示会をたびたび実施し、12年には東京オフィスを開設するなど、積極的に事業を展開している。2011年、第一回「日本でいちばん大切にしたい会社大賞審査委員会特別賞」受賞、2012年、富山県「第一回中小企業元気とやま賞」受賞、日本鋳造工学会「Castings of the Year賞」受賞、2013年、第5回「ものづくり日本大賞 経済産業大臣賞」受賞、2015年、EYアントレプレナー・オブ・ザ・イヤー・ジャパンにて、東海・北陸地区を代表する起業家に選出。

お客様の顔が見えるものづくり

当社の本社工場がある富山県高岡は伝統産業が強いまちです。同時に封建的で閉鎖的ともいわれ、職人さんたちがなかなか外に出ようとしないう傾向があり、伝統産業は苦戦し続けています。生産額は1990年をピークに減り続け、今はその4分の1でです。当社が独自に販路開拓を始めたのはそんな状況を打破するため、そして「お客様の顔が見えるものづくりがしたい」という一心からでした。

創業以来、仏具や茶道具、花器などを作ってきた当社ですが、新たな販路を開拓するためには、生活に密着したデザイン性の高い商品を生み出す必要がありました。チャンスが巡ってきたのは2001年、当社の技術を見た方から「東京で展示会を開いてみてどうか」と提案いただいたのです。展示会では素材に重点を置き、茶器を中心にあって着色なしの「裸」の品々を並べてみたところ、受注をいただくことができました。その一つが、都内の会社さんから真鍮製

のベルを作ってほしいというものでした。しかしこのベル、作ってはみたものの、当初は全く売れませんでした。それもそのはず、ベルが使われる場面は日常生活でほとんどないからです。するとある時、インテリアショップの販売担当の方から「このベルはスタイリッシュで音がきれいだから風鈴として作り直してみても」とアドバイスされ、その通りしてみました。これが飛ぶように売れました。値段は1個4000円以上、そんな高価な風鈴を買う人なんていないだろうと思っていました。蓋を開けてみると結婚式の引き出物や法事の贈り物といった市場があったのです。

それ以来、商品開発のアイデアは消費者より実際に商品を買っている担当者から聞くべきだと確信しました。彼らは実際にお客様と接する中でどんなニーズがあるかを知り、分析しているので、その分だけ外れ率が低くなります。以来、そういった現場の声を取り入れて徐々に自社商品のラインアップを増やし、それと同時に百貨店などへの出店を進めていきました。

「シリコン鋳造法で医療分野にも」
現在、販売の主力となっているのは錫食器製品です。錫の素材特性としては金、銀に次ぐ高価な金属であり、酸化しにくく、大腸菌や黄色ブドウ球菌などに対する抗菌作用が強い、高いイオンの効果によって酒の味わいをまろやかにするなどが挙げられます。当社の錫は純度99.995%、通常は硬度を持たせ切削性を高めるために他の金属材料を加えますが、当社の製品はそれらは一切含みません。高純度の錫は柔らかすぎず機械仕上げに向かないため職人が手で仕上げるので、金属でありながら陶器のような温もりを感じるという評価もいただいています。この錫加工をさらに推し進め、08年には「シリコン鋳造法」を開発しました。シリコンの型に錫を流し込むのですが、錫の融点は231℃、シリコンの限界点は250℃なので非常に際どいラインです。通常、デザイナーさんと作家さんが作品を作るとき、型を1回使うと終わりですが、当社の型は表面の微細な表現力を維持したまま、500回以上の鋳造に耐えます。この方法は最近になって始めた医療器具の製作でも使用されています。前述した錫の抗菌性や柔軟性を生かした医療手術用脳ペラで採用されたのをはじめ、入れ歯入れなどヘルスケア用品開発の案件も進めています。また、当社では海外の展示会にも積極的に参加するようにしています。最初は日本の商品をほとんどそのまま持って行きましたが、それではうまくいかず、途中から海外の人たちの声や文化を反映した商品を作り、それらを持って行くようにしています。現在、イタリアのミラノに直営店を持つていますが、そこは販路拡大はもちろん、そういった現地の声を集める役割も担っているのです。

第3分科会レポート

まちづくり ものづくり —金沢の物語—

第3分科会では、金沢市長を5期20年務め、現在は石川県中小企業団体中央会会長である山出 保氏に、金沢の歴史と魅力を語っていただきました。

講演者



山出 保氏

やまで・たもつ
石川県中小企業団体中央会会長
元金沢市長

1931年、石川県金沢市生まれ。54年に金沢大学卒業後、金沢市役所に入庁し、財政課長、財務部長を歴任、87年、金沢市助役に就任。90年、金沢市長に初当選し、5期20年在職。この間、2003年6月から全国市長会会長を2期4年務める。13年、石川県中小企業団体中央会会長に就任。2000年、「日本建築学会文化賞」受賞、2005年、「日本都市計画学会石川賞」受賞、2010年、「フランス共和国レジオンドヌール勲章シュバリエ章」受章。著書に『金沢の気骨』（北国新聞社）、『金沢を歩く』（岩波新書）。

伝統技術を守る金沢職人大学校

「まちづくりの基本は保存と開発の調和、伝統文化と新文化の融合だ」という持論のもと、20年間もの長きにわたって金沢市政を主導してまいりました。

金沢はこの400年、幸いにも戦災や震災にあわなかったのが、現在も古い町家や社寺が数多く残っています。こうした伝統的建築物の手入れや修復を担ってきたのは、もちろん地域ごとの建築系の大工・建具・壁・石工などの職人たち。代々受け継がれてきた彼

らの知恵と工夫はまさに伝統技術の宝庫です。

ところが、1960年代頃から徐々に全国的に人口の減少が進む中、ここ金沢でも高齢化と担い手不足で職人の技芸の衰退が危ぶまれるようになりました。そこで、私は90年代後半に「金沢職人大学校」を開校したのです。職人の技の伝承と人材育成に取り組みとともに、資料の収集・調査・発表を行うことで、匠の技への社会的評価を高め、一般の理解と関心を深めることが目的でした。城郭や町家、茶室、社寺などの修復

には高度な専門技術が必要であり、それは従来の教育機関で習得できるものではありません。職人大学校のような、実際に社寺などの修復を手掛けてきた職人さんたちが、次代の担い手に直接技術を伝える場が必要なのです。ちょうど開校と時期を同じくして、県の方で金沢城址の櫓や長屋・門・庭の復元が行われ、国が茶屋街や寺院群を重要伝統的建造物群保存地区に選定してくださったので、卒業生たちはこれらの仕事に習得した技術を存分に発揮できる機会に恵まれました。自分でいうのもなんですが、長く市長を務めた中でも、同校の開校はとても意義のあるいい仕事だったのではないかと思います。

金沢には、このような古きを守る取り組みと同時に、金沢21世紀美術館などの新しい建造物・建造物のほか、例えば構造物として2005年、金沢駅東口に誕生した「もてなしドーム」と「鼓門」があります。これらの設計にあたっては、まず金沢大学、金沢工業大学、金沢美術工芸大学の先生方にデザインやコンセプトの基本を固めてもらいました。金沢市

内には全部で18の大学があり、まちづくりのプロジェクトなどの際には積極的に先生方の力を借りるようになっているのです。もてなしドームは3000枚以上のガラスを用いたモダンなトラス構造のドームで、金沢の玄関口に明るく、雨にも濡れない広場を作り出しています。ドームを出たところにある鼓門は、金沢の伝統芸能である加賀宝生の鼓をイメージした2脚の柱に、格子状の屋根をかけた木製の門です。まさに伝統と革新が共存した金沢の町を、この2つの構造物が象徴しているというわけです。

創造都市登録で手仕事に新風を

金沢はまた、古くから「手仕事の町」と呼ばれてきました。国が選定した6種（金箔仏壇、金箔箔、加賀友禅、九谷焼、金沢漆器、加賀繻）を中心として、日本を代表する伝統工芸が数多くありますが、これらもやはり、近年はライフスタイルの変化とともに市場産業としての活力を失いつつあります。こうした状況を打開するために、私は08年にパリのユネスコ本部に行き、金沢のクラフトを

ユネスコの「創造都市ネットワーク」に登録するよう依頼しました。この創造都市とは、革新的な文化活動を産業に結びつけて町を元気にしている都市のことです。金沢の職人たちに「みなさんの手仕事はユネスコに認められたのです」と一言伝えたい一心で申請したところ、幸いにも金沢は世界で69ある創造都市の一つとして認定されました。そのおかげで以後、伝統工芸に新しい風を送りこむさまざまな取り組みが始まっています。

かつて詩人の大岡信氏は「伝統とは創意の連なりである」と言いました。伝統工芸品を未永く残していくには、先人たちの技術を守ると同時に、常に新しい挑戦を繰り返さなければならないのです。「昔もあって、今もある」

それが金沢ならではの魅力、金沢らしさだと私は思います。2015年3月の北陸新幹線の金沢開業でより多くの方たちが金沢を訪れてくれるようになったので、今後は市民一人ひとりに伝統に創造の営みを加えることの大切さを自覚してもらい、金沢の魅力の世界に発信して行ってほしいと願っています。

懇親ゴルフ大会

参加者91名

記念旅行

参加者68名

11月13日、日本女子オープンゴルフ選手権の開催コースとして知られる「片山津ゴルフ倶楽部」で、総勢91名が参加し、懇親ゴルフ大会が開催されました。

同倶楽部は、全54ホールを誇る、日本海側最大規模のゴルフ場で、松林の自然美と絶妙な起伏をもった片山津の地形を生かし、自然とゴルフが融合したコースを有します。今回は、緩やかなスロープを持つアウトとフラットなインが特徴的な白山コースと、大小のマウンド、グラスバンカーなどが絶妙に配置され、松林の大自然とマッチした加賀コースを舞台にプレーが行われました。

大会の結果は表の通りになりました。表彰式は、横田 雅裕大会実行委員の司会



1.地形を生かした起伏と松林の自然美が融合したコースでのプレー 2.単位会優勝のスピーチをする澤田 和夫先生 3.白山コースで優勝した加藤 敦司先生 4.加賀コースで優勝した植田 順先生

【個人成績(白山コース)】

順位	氏名	グロス	HDCP	ネット
1位	加藤 敦司(中部会)	88	15.6	72.4
2位	矢ヶ崎 清(関東信越会)	93	20.4	72.6
3位	澤田 和夫(近畿会)	98	25.2	72.8

【個人成績(加賀コース)】

順位	氏名	グロス	HDCP	ネット
1位	植田 順(近畿会)	81	9.6	71.4
2位	村田 一(四国会)	91	19.2	71.8
3位	森東 道夫(沖縄会)	100	27.6	72.4

【単位会対抗戦】

順位	単位会	ネット計
1位	近畿会	220.6
2位	沖縄会	220.6
3位	四国会	220.8
4位	中国会	221.2
5位	中部会	221.8
6位	関東信越会	222.2
7位	東北会	224.0
8位	北陸会	228.6
9位	九州会	230.4

でスタート。桶屋 泰三大会実行副委員長の開会挨拶の後、常山 明夫北陸会会長がプレゼンターとなり賞品授与が行われました。単位会、両コースの個人優勝者からスピーチをいただき、四国会会長の松内 邦雄先生の閉会の言葉で終了となりました。

今回の記念旅行は、11月13日から15日にかけて、北陸3県を巡る2泊3日の行程で開催されました。

1日目は福井県を中心としたコースです。現存する中では日本最古の天守閣を有する丸岡城の見学から始まり、次は恐竜にまつわるさまざまな展示がされた福井県立恐竜博物館を訪れました。続いて出家参禅の道場として有名な永平寺を訪問し、最後に雄々しい地形を誇る東尋坊で絶景を望みました。この日はホテルアローレに宿泊。

2日目は一路、富山県へ。まずは世界遺産の五箇山相倉合掌造り集落を訪れ、合掌造り家屋と豊かな自然が織りなす美しい景色を堪能しました。続いて国宝、瑞龍寺の見学を経て、富山湾の海の幸がそろそろひみ番屋街で買い物を楽しみました。この日は手厚いおもてなしで知られる旅館・加賀屋にお泊まりいただきました。

最終日は、日本三大朝市に数えられる輪島朝市からスタートです。その後、創業から150年の歴史を誇る老舗、輪島塗しおやす漆器工房で秀逸の品々を見学し、2011年に世界農業遺産に認定された白米千枚田を訪れました。最後は、小松空港、金沢駅と移動し、散会となりました。



1.日本最古の天守閣を有する丸岡城 2.永平寺は厳かな雰囲気 3.東尋坊の絶景を皆様で見ました 4.初日の夜は参加者全員での食事会 5.五箇山相倉合掌造り集落の美しい風景 6.加賀藩二代藩主前田利長公の菩提寺である瑞龍寺 7.秀逸の品々が並ぶしおやす漆器工房 8.世界農業遺産の白米千枚田

HITACHI
Inspire the Next



日立品質には
ココロが宿っている。



製造から保守まで一貫してお客さまを想うことで、
進化を続ける日立品質。

多様化するビジネスニーズに即応する、柔軟性の高いシステム構築のために
日立が実践していること。それは一

お客さまへの細やかな心配りに満ちたモノづくり。
そして、お客さまの満足を第一に考えたサポート。

製造・テスト・導入・運用・保守まで一貫し
仕事にココロを込めることこそ、日立品質の源です。
私たちは今後も、可用性と運用性を備えた信頼性の高いサーバの提供を通じ、
お客さまのビジネスのイノベーションを支えてまいります。

ハードの性能/機能

ハードの信頼性

運用管理の容易さ

導入時の支援

ハードの信頼性

運用管理の容易さ

導入時の支援

顧客満足度調査 2015-2016

日経コンピュータ PCサーバ部門

日経コンピュータ2015年9月3日号
顧客満足度調査 2015-2016
PCサーバ部門 1位

トラブルシューティング

問い合わせへの対応

全10評価項目中、
上記の6部門でトップのスコア



日立アドバンスサーバ

HA8000 series

インテル® Xeon® プロセッサ搭載



● Intel, インテル, Intel ロゴ, Intel Inside, Intel Inside ロゴ, Xeon, Xeon Inside は、アメリカ合衆国および/またはその他の国における Intel Corporation の商標です。
● HITACHI は、株式会社日立製作所の商標または商標登録です。● その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

◎ 株式会社 日立製作所 情報・通信システム社 ITプラットフォーム事業本部

■ お問い合わせ HCAセンター
0120-2580-12 (土、日、祝日を除く 9:00~12:00 13:00~17:00)
URL: <http://www.hitachi.co.jp/ha8000/>

**Human Dreams.
Make IT Real.**